

### Ⅲ. 「基準」ごとの自己評価

#### 基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

(1) 1-1の事実の説明(現状)

1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

本学の建学の精神は、まず、学校法人花園学園寄附行為第3条第1号に「この法人は、仏教の教義ならびに禅精神に基づき教育基本法および学校教育法に従い学校教育を行うことを目的とする。」と規定され、花園大学学則第1条に「本学は高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする。」と明記されている。

本学は、これを踏まえ学長のメッセージとして、『臨濟禅による禅的人間教育』を次のようなことばで発信している。

「臨濟禅にもとづく本学の教育精神は、とりもなおさず個々にありありと息吹きつづける尊厳なる人格の自覚と、飽きることのない未来への可能性の追究と努力であって、百三十五年の星霜をくわえて、つねに新たな教育の風をすすんで受け入れながら、自らも変革を続けてきたのであります。ことに宗祖臨濟禅師の「無依の道人(むえのどうにん)」の自覚の教えは、あらゆる権威や立場や概念におちいることなく、つねに新鮮に一瞬一瞬を大切に生き、しかも闊達自在に社会にかかわり貢献していく真の自由人の確立にほかならないのです。・・・禅の教えに根拠をおく本学の導くところは、一人ひとりがたゆまぬ自己追究と変革によって日々新たな夢と希望と確信にみちたみずからの世界を創造することにつきるであります。」(「INTRODUCTION TO HANAZONO UNIV 2006」より)

本学の建学の精神である『臨濟禅による禅的人間教育』は、受験生向けの大学案内、一般配布の広報誌「INTRODUCTION TO HANAZONO UNIV」、ホームページ等を通じて学内外に示している。また、学内においては、入学式、創立記念式典、教職員研修会、学位記授与式等において学長や学校法人花園学園理事長(妙心寺派宗務総長)から、大学の設立経緯を含む建学の精神やそれに基づいた大学の基本理念について参加者に直接語りかけることで、建学の精神を周知させる好機となっている。

(2) 1-1の自己評価

建学の精神・大学の基本理念の示し方は、学内と学外で若干異なっている。学内の教職員や学生に対しては、入学式や学位記授与式等で学長や理事長が直接語りかける方法で周知を図っている。これに対して、学外へは、主にホームページや印刷物によってこれを発信している。

また、キャンパス内には、「教堂(きょうどう)」というミッション系大学におけるチャペルのような施設があり、ここを中心として「宗教部」が各種の宗教的活動を実施していることもあり、学生や教職員は、ごく自然に肌で本学の建学の精神を感じ取ることが可能となっている。

(3) 1-1の改善・向上方策(将来計画)

本学では、大学を紹介するビデオ(プロモーションビデオ)の制作が未着手の状態にあり、今後早い時期に映像による大学紹介を作成し、この中に、本学の建学の精神・基本理念を盛り込み学外に発信していきたい。

また、ホームページは、本学の建学の精神・基本理念を学内外へ発信する極めて有効な手段である。しかしながら、本学では、現行のホームページが他大学のそれと比較して、もう一段の工夫の余地があるのではないかとの指摘もあり、今後、学内の情報化委員会等の機関で充分検討し、より見やすいホームページのあり方を探ると共に建学の精神・基本理念の学外への示し方についても検討していきたいと考えている。

1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

(1) 1-2の事実の説明(現状)

1-2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

「臨済宗門の後継者教育」を第一義として出発した本学は、1966年の文学部設置以降、宗門後継者のみならず、多数の一般家庭の学生を受け入れることによって、個別学科の専門教育に加えて「臨済禅による禅的人間教育」を行うことをその使命・目的とするに至った。

1966年4月に設置された文学部の認可申請書の設置目的には、次のように記されている。

「本学は学校教育法第25条に基づき、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化の発展に貢献する人物の養成を目的とし、もって人格高邁なる禅宗僧侶ならびに実社会における有為な人材を打ち出すことを使命とするものである。

かかる目的・使命のもとに明治5年発足以来、幾多の変遷を経て、昭和24年新制大学となり、仏教学部仏教学科を設置して、有能な宗教家および高度な学術研究者を養成し来たったのであるが、昭和39年、社会の要請に応ずるために同学部に仏教福祉学科を増設し、道徳的及び応用的能力の旺盛な社会福祉家の養成をめざすこととなったのである。

ところが本学は、従来仏教学部のみ設置していたために仏教教理の研究ないし、その応用的研究にとどまりがちで、高度に進歩発展した現代社会の文化構造の内にある本学の教育目的を十分に発揮できないうらみがあった。加えて仏教研究の立場からいっても広く人文科学・社会科学との関連において研究がなされねば充分な究明のなしえないことは論を待たないところである。

それ故、ここに仏教学部を廃止し、その内容を改組し新たに文学部を設置し、その中に従来の仏教学科および仏教福祉学科を含め、より広い視野からの研究体制の整備をはかると共に印度・中国・日本の精神文化において仏教の占める地位は大きく、従って、これらに関係する史的文学的研究によって、学界ならびに人類文化の進展に寄与貢献しうる分野にある史学科・文学科を増設し、もって研究体制を更に整え、本学の教育目的を十分に発揮しようとするものである。」

1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

本学の使命・目的は、学生に対しては、入学式、オリエンテーション、学位記授与式等を通じて、学長・理事長のメッセージとして周知されている。また、新入生には、オリエンテーションの一環として妙心寺にお参りし、法堂で学長の法話を聞き、坐禅の作法を学ぶ機会が設けられている。一方、在学生には、「誓願の集い」という行事が実施されている。これは、本学の創立記念日に妙心寺にお参りするもので、ちなみにその行事の内容は、花供養(合唱):花園大学混声合唱団 法話:学長 般若心経:全員で唱和 誓願〔教堂の祈り・三帰依(合唱)・四弘誓願(合唱)〕 管長のお話 記念撮影 妙心寺諸堂拝観 祝齋(妙心寺の精進料理)とバラエティに富んでいる。

また、新入生全員に「仏教聖典」が配布されており、在学生には全員に年間4冊の季刊「禅文化」誌を送っている。この「禅文化」誌は、財団法人禅文化研究所が発行している禅仏教研究の季刊誌である。

教職員に対しては、創立記念式典、教職員研修会、事務局会議等で学長・理事長から口頭で周知されている。また、教職員全員には、妙心寺派の機関誌「花園」が毎月配布されると共に、あわせて学生同様、季刊「禅文化」誌が年4回配布されている。

1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

学外への大学の使命・目的の公表は、主にホームページで行われている。ホームページでは、「学長あいさつ」として本学の建学の精神、使命・目的がわかりやすい言葉で述べられている。また、一般の方々への配布を目的とした広報誌「INTRODUCTION TO HANAZONO UNIV」には、「学長メッセージ」として公表されている。

入学希望者や高等学校教員へは、入学案内に「学長のページ」が設けられ、本学の建学の精神、使命・目的が語られている。オープンキャンパスや進学説明会では、学長・副学長・入試委員長等が口頭で公表している。

在学生の保護者、卒業生、就職先企業、非常勤講師等へは、口頭あるいは印刷物で機会あるごとに公表に努めている。

## (2) 1-2の自己評価

本学の使命・目的は、個別学科の専門教育に加えて「臨済禅による禅的人間教育」を行うことにある。その周知方法は、「学長や理事長のメッセージ」として口頭ないし印刷物で発信されている。

受験生への周知は入学案内等の印刷物が主たるものであるが、学生への周知は、入学時の諸行事や創立記念行事等での学長等の口頭による伝達が主なものとなる。本学の使命・目的への関心度・接触頻度を考えると、受験生の場合は、受験情報誌、入学案内、オープンキャンパス等により比較的積極的に行われていると考えられるが、入学後は、入学時の諸行事を終えると、大学の使命・目的等を再確認する機会は極端に少なくなる。創立記念日に実施している「誓願の集い」は、こうした状況を改善する一助にと、現学長の発案によりはじめられた行事である。

今後とも、大学の学業と共にこうした事柄に触れる機会を増やし、本学の教育の目

標がどこにあるかを再確認できるよう、周知方法の改善を検討して行きたい。なお、周知方法については、現在の若者にとって魅力ある伝達方法の工夫も忘れてはならない。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

大学紹介のビデオ制作については、現在進行中の学科改組計画・新校舎建設計画に併せて積極的に取り組み、大学の建学の精神、使命・目的の公表がクルエイティブな姿で実現できるようにして行きたい。

在学生に対しては、大学の建学の精神、使命・目的の再確認の貴重な機会となっている、現学長発案の行事である「誓願の集い」を堅持し、より充実したものにして行きたい。

[基準1の自己評価]

本学の建学の精神、基本理念は、建学当初、「臨済宗門の後継者教育」であった。その後幾星霜を経て、多数の一般家庭の学生を受け入れることと伴って、その使命・目的は、個別学科の専門教育に加えて「臨済禅による禅的人間教育」を実施することとなっている。

この使命・目的は、学生に対しては、入学式、オリエンテーション、「誓願の集い」等で伝達し、教職員へは、創立記念式典、教職員研修会等で伝達している。また、学外者に対しては、主にホームページや広報誌「INTRODUCTION TO HANAZONO UNIV」を通じて伝達されている。

なお、伝達の「方法」については、よりわかりやすく、より有効な方法で公表するよう工夫する必要がある、この点では現状は充分とは言い難く、改善の余地を残している。

[基準1の改善・向上方策（将来計画）]

在学生は、入学後、入学時の諸行事を終えると、大学の使命・目的等を再確認する機会が極端に少なくなる。創立記念日に実施している「誓願の集い」は、こうした状況を改善する一助にと、現学長の発案によりはじめられた行事であり、今後とも堅持、充実発展させて行きたい。

大学紹介のビデオ制作については、今後早急に具体化し、大学の建学の精神、使命・目的の公表がクルエイティブな姿で実現できるようにしたい。